

## 農協法改正・農協グループの自己改革の論点・課題をふまえた農協の新規就農者支援、営農経済事業高度化に関する第9回シンポジウム

今日、わが国の総合農協は、“グローバル企業セクター”による投下資本への短期的な「利潤追求指向」と異なり、次世代を見据えた組合員と地域社会の「幸せづくり指向」の“協同組合セクター”の存在意義を再認識し、世界から注目される多様な家族農業経営（家族農業を協同化した集落営農法人、家族農業を高度に補完する農協の直営や子会社による農業経営等を含む）を大切に持続可能な循環型経済社会づくりを使命とする大転換期を迎えています。

このシンポジウムを通じて、農協、地元の市民、漁協・森林組合・生協・ワーカーズコープ、NPO、商工業者、自治体との連携強化の輪が広げられ、地域特性を活かした総合農協運動の新地平開拓のプライドが高められ、農協以外の参加者の皆さんは協同組合セクターの一翼を担う総合農協とその連合組織の存在意義の深い認識と現実の農協グループへの共感、厳しい批判的問題提起、提言を期待しています。

1. 日時：平成28年11月10日（木）13:00～16:50

2. 会場：東京農業大学世田谷キャンパス 1号館 5階 533教室

3. 参加申込みの方法：GIS、農協いずれかの研究部会長宛に①～⑤を明示してご連絡願います。

GIS研究部会長 鈴木充夫宛 fax: 03-5809-0894/e-mail (msuzuki@nodai.ac.jp)

農協研究部会長 白石正彦宛 e-mail (mshirais@nodai.ac.jp)

①所属学科名、②参加者氏名、③所在地、④電話番号、⑤FAX番号またはe-mailアドレス  
申込み期限 11月2日（水）まで

4. 参加費：無料

5. シンポジウム・プログラム：

開 会 13:00

第1報告 「農協グループの自己改革の論点・課題をふまえた農協の新規就農者研修・定着化支援の実態と営農経済事業高度化モデルの構築方策」  
13:05-13:25 白石 正彦（東京農業大学名誉教授、総研農業協同組合研究部会長、国際農業農村協同組合学会 ISARCS 会長）

第2報告 「GISを活用した農協の営農指導の効率化と農協グループ役職員の役割」  
13:25-13:45 鈴木充夫（東京農業大学前教授、総研GIS研究部会長、(株)協同経済経営研究所所長）

第3報告 「中山間・平坦農村地域農協の自己改革の論点・課題をふまえた農協の営農経済事業高度化の実践—信州うへだ農協の実践を中心に—」  
13:45-14:15 芳坂 榮一（JA長野県5連前副会長、信州うへだ農協前組合長）

第4報告 「中山間・平坦農村地域農協の自己改革の論点・課題をふまえた農協の新規就農者研修・定着化支援の実践—信州うへだ農協子会社の実践を中心に—」  
14:15-14:35 船田 寿夫（(有)信州うへだファーム常務取締役）

第5報告 「農協における農業GISを活用した大規模野菜産地の営農経済事業の高度化と野菜の販売戦略—岩手県新いわて農協の実践を中心に—」  
14:45-15:15 田村 繁行（新いわて農協 奥中山営農経済センター米穀園芸課）

コメント 梶井 功（東京農工大学名誉教授）

15:15-15:40 勝又 博三（JC総研常務理事）

一般討論と総括 15:40-16:45

閉 会 16:50